

FASB と IASB、 概念フレームワークの草案を公表

制度調査部
古頭 尚志

主な会計基準設定主体の最近の動向

【要約】

2006年7月6日、FASB（米国財務会計基準審議会）とIASB（国際会計基準審議会）は、共同概念フレームワークの第一草案を公表した。

FASB と IASB は、両者が今後コンバージェンス（収斂/統合）すべき項目として合意した内容を MOU（Memorandum of Understanding：共通理解に関する覚書）として公表しており、今回の草案はこうした両者の共同作業の一環である。

本稿では、FASB のウェブサイト¹に公表されたニュース・リリースに仮訳を付して紹介する。

FASB と IASB が共同概念フレームワークの草案を公表

2006年7月6日、FASB（米国財務会計基準審議会）とIASB（国際会計基準審議会）は、共同概念フレームワーク¹の第一草案を公表した。

両者は2002年9月の「ノーワーク合意」により、会計基準の差異を解消するための共同プロジェクトに着手した。また、2006年2月には今後コンバージェンスすべき項目として合意した内容を MOU（Memorandum of Understanding：共通理解に関する覚書）として公表している。今回の共同概念フレームワークの草案も、こうした作業の一環である。

次項では、本ニュース・リリースの仮訳と原文を掲載する。原文はFASBのウェブサイト²より本文部分を抜粋して引用する。

ニュース・リリースの内容

(1) ニュース・リリース 2006年7月6日（仮訳）

FASB と IASB が共同概念フレームワークの第一草案を公表

両審議会は、財務報告の目的と意思決定に役立つ質的特性を明らかにする提案についてのコメントを募集

FASB と IASB は本日、パブリック・コメントに付するため、改良された概念フレームワークの最初の2章分に関する、審議会の予備的な見解を整理した協議文書を公表した。草案は財務報告の目的、意思決定に役立つ財務情報の質的な特性を定めている。

当該文書は、概念フレームワークに関する両者の共同プロジェクトから生み出された最初の成果物である。

¹ 概念フレームワークとは、各国の会計基準の背景にある基本概念の体系のことである。

² FASB のウェブサイト（<http://www.fasb.org/news/nr070606.shtml>）より引用。



このプロジェクトは、2006年2月に公表された両者の共同作業プログラムを計画したMOU(Memorandum of Understanding: 共通理解に関する覚書)に記載されているものである。概念フレームワークに関する作業は、MOUに記載された目的の達成のため、両審議会が努力していることを知らしめるものとなるだろう。

現在、両者はそれぞれ独自のフレームワークに依拠している。これらは互いに様々な点で異なっており、不完全で、現在の状況に対応していない。両者共同の予備的見解の公表は、両者の既存の概念フレームワークのコンバージェンスを高め、改善し、達成するという両者共有の約束を反映するものである。両審議会は、共通の概念フレームワークが、世界の財務報告の基礎をなし、世界の財務報告基準を開発する際の、より効果的な指針として役立つ基盤と概念をより良いものにするに信じている。

予備的見解では、既存のフレームワーク上における様々な外部の財務報告の目的に関する定義を、「現在および将来の投資家・債権者等が、投資・貸付け・類似の資源配分を決定するのに有用な情報を供給するもの」として再構成している。当該文書では、意思決定に有用な財務情報の特性全般における妥当性、記載の正確性、比較可能性(一貫性を含む)、明瞭性についても確認している。

提案の公表を検討する中で、FASBのメンバーであるマイケル・クルーチ氏は次のようにコメントした。

「我々にとって共通のゴールは、各会計基準を、慣例の集合体ではなく、基本的な概念に根ざした一貫性のある原則に基づくようにすることである。これを達成するため、両審議会は財務報告の大半の基礎的な構成要素、そこから生じる他のあらゆる概念、この場合においては、財務情報とは何を意図するものなのか、についてまで主張する必要がある。」

IASB議長、デビット・トゥイーディー卿は次のように述べた。

「本日公表された文書で述べられる考えは、会計における最も基本的なものの一部である。それゆえ我々の作業が、将来の会計および財務報告基準の発展をもたらすための、より効果的で適切な基盤の確立に向けたものとなるように、これらの提案された改良案に対し、多くの見解が寄せられることを強く希望する。」

FASBとIASBは、2006年11月3日までに予備的見解へのコメントを求める。両審議会では、寄せられたコメントを吟味したうえで、2007年にこれらの章の公開草案の公表を計画している。

(2) NEWS RELEASE 07/06/06 (原文)

US FASB and IASB Publish First Draft Chapters of Joint Conceptual Framework

Boards seek constituents' feedback on proposal that defines objective of financial reporting and qualitative characteristics of decision-useful information

The US Financial Accounting Standards Board (FASB) and the International Accounting Standards Board (IASB) today each published for public comment a consultative document setting out their preliminary views on the first two chapters of an enhanced conceptual framework. The draft chapters define the objective of financial reporting, and the qualitative characteristics of decision-useful financial information.

The document is the first to result from the boards' joint project on the conceptual framework. This project was described in their Memorandum of Understanding published in February 2006, which laid out a joint programme of work for the FASB and the IASB. The work on the conceptual framework will inform both boards' efforts to achieve the objectives described in the Memorandum of Understanding.

At present, the boards are each guided by their own individual framework. These differ from each other in various respects, are incomplete, and are not up to date. The publication of the boards' joint preliminary views reflects their shared commitment to build upon, improve and achieve the convergence of their existing conceptual frameworks. The boards believe that a common conceptual framework will improve the foundation and concepts that underlie global financial reporting and serve as a more effective guide in developing global financial reporting standards.

The preliminary views restate the existing frameworks' definition of the objective of general purpose external financial reporting as providing information that is useful to present and potential investors and creditors and others in making investment, credit and similar resource allocation decisions. The document also identifies relevance, faithful representation, comparability (including consistency) and understandability among the characteristics of financial information that make it decision-useful.

In discussing the publication of the proposals, Michael Crooch, a member of the FASB, commented,

A common goal of the boards and our constituents is for standards to be based on consistent principles rooted in fundamental concepts, rather than a collection of conventions. To achieve this, the boards need to affirm even the most basic building blocks of financial reporting, from which all other concepts will flow, in this case, what is financial information intended to do?

Sir David Tweedie, Chairman of the IASB, said,

The ideas set out in the document published today are some of the most fundamental in accounting. We are therefore keen to receive views on these proposed enhancements as we work towards establishing a more effective and sound foundation to guide us in the development of future accounting and reporting standards.

The FASB and the IASB invite comments on their preliminary views by 3 November 2006. When they have considered the responses received the boards plan to publish an exposure draft of these chapters in 2007.

ASBJの動き

FASB と IASB が連携を進める中、日本の ASBJ (企業会計基準委員会) も両者との協議を開始している。

- ・ IASB との間では本年 3 月 1 ~ 2 日の両日、企業会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第 3 回会合を開催した。同会合では、「現在までの検討状況」「共同プロジェクトの今後の進め方：新たなプラン」が話し合われている³。次回の会合は本年 9 月の開催を予定している。
- ・ また、本年 5 月 18 ~ 19 日の 2 日間、FASB との間でも第 1 回の協議を行っている⁴。ASBJ からは日本の企業会計の概要、日米間の会計基準の差異分析、IASB との共同プロジェクトの最近の状況、日本の概念フレームワーク (完全に明文化されているわけではない。次項を参照) の説明が行われた。一方、FASB からは、FASB の概念フレームワーク、公正価値測定、投資不動産の会計処理など、IASB との間で進めている共同プロジェクトの状況について説明がなされた。次回は本年 11 月の開催が予定されている。

³ ASBJ のウェブサイト概要がまとめられている (以下のアドレスに掲載の文書を参照) 。

http://www.asb.or.jp/html/international_issue/convergence/pressrelease_20060302.pdf

また、以下のレポートでも詳しく解説されているので参照されたい。

2006 年 3 月 31 日 齋藤純 「国際会計基準とのコンバージェンス・プロジェクト」 (制度調査部情報)

⁴ ASBJ の以下のページを参照。

http://www.asb.or.jp/html/international_issue/convergence/pressrelease_060519.pdf

さらに、昨今の経済取引の進展や国際的な会計基準とのコンバージェンスの流れに対応するため、ASBJ は基本概念専門委員会を立ち上げ、本年5月26日より検討を開始している⁵。これは、2004年7月に公表された「財務会計の概念フレームワーク」と題する討議資料を基に、日本における財務会計の考え方を、正式な概念フレームワークとして明文化しようとするものである。国際的な議論を展開していく中で、日本の意見を発信していく際の拠り所としての役割を期待されている。

⁵ 以下のサイトで同専門委員会の目的やこれまでの議題等が公開されている。本稿執筆時現在、専門委員会は4回開催されている。
http://www.asb.or.jp/html/technical_committees/concept.php